



VJU
Vietnam Japan University
VNU since 1906

【日越大学メールマガジン Vol.30, 2019年12/2020年1月合併号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナムハノイで開校しました。

現在、修士課程に3期生79名と、9月から第4期生87名（うち13名の外国人学生：日本人1名、ミャンマー人5名、ラオス人1名、フィリピン人1名、スリランカ人1名、ロシア人1名、ナイジェリア人3名）【1/9時点】の、計166名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ(MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。



【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

1. 日越大学企業管理プログラムの学生がANAを訪問

日本でのインターンシップに参加中のMBAプログラムの学生は、11月25日にANAを訪問させていただきました。

まずは、最新の訓練施設であるANA Blue Baseを訪問させていただき、ANAの歴史や活動の説明、パイロットや客室乗務員の訓練の説明を受けました。このANA Blue Baseは一般見学開放前であるにも関わらず、特別に見学させていただく機会をいただき、その後は、羽田空港に移動し、実際のオペレーションを見学させていただきました。

今回の訪問には、ANAハノイ支店から支店長や現地スタッフの方々も参加して頂き、さまざまな場面でサポートしていただき、学生たちも生き生きと質問をすることができ、学生たちの学びに繋がりました。

なお、このインターンシップはANAのウェブページでも取り上げられました。

https://www.anahd.co.jp/ana_news/2020/01/21/20200121-1.html



(参加者との記念写真)

2. 文化講座の開催

1) 古代文字アート

2020年11月15日、古代文字アートの芸術家グループ・天遊組が本学を訪問し、漢字の成り立ちや意味の講義をおこなって頂いた後に、墨と筆で文字を書き、漢字に親しむワークショップを行いました。

ワークショップ終了後、過去に漢字圏であったベトナム人学生達に感想を聞いたところ、自国の歴史的建造物に残されている漢字や、日本語の授業で触れる漢字に親しみが湧いたと感想を述べていました。

最後に天遊氏に「学」という古代文字を書いて頂き、本書は日越大学ゲストルームに展示しています。



(古代文字「学」と古田学長)



(ワークショップの様子)

2) 折り紙

日本語教育プログラムでは、学期ごとに日本文化への理解を深め日本語学習への動機づけを高めることを目的とし、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの協力のもと、日本文化講座を実施しています。

2019年12月には、第4回目となる講座を実施し、3期生、4期生の学生、職員の希望者計26名が参加しました。

当日は、「折り紙で学ぶ日本文化」と称したテーマで、クイズを通して折り紙に関する歴史に関する知識を深め、サンタクロース・トナカイといった季節に合わせた折り紙の折り方を学びま

した。

最後に行われたグループ対抗クリスマスリースのコンテストでは、各グループ、チームワークを発揮しながら白熱し、にぎやかな講座となりました。



(折り紙ワークショップの様子)

3. 気候変動国際ワークショップの開催

1月9日－10日の日程で、“Natural Resources, Human Resources, and Risk Management in the Context of Climate Change” と題するワークショップが、ハノイ自然資源環境大学（HUNRE）にて開催されました。

本ワークショップは日越大学、茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）およびHUNREとの共催であり、日越大学からも教員と学生が参加しました。

初日の9日にはハノイ南西約100kmにあるハイフォン省ティエンラン県の沿岸地域にてエクスカーションツアーを実施し、現地ではマングローブ林や漁村等を訪れ現地の気候変動影響と適応策について学びました。

翌日10日のワークショップでは気候変動における自然-人的資源とそのリスク管理について、12の口頭講演と約30のポスター発表が行われ、約150名の参加者の間で活発な議論が交わされました。また、ポスターコンテストではMCCDの2年生Nguyen Thi Hong Duongさんが、研究課題：Disaster risk reduction activities in schools: International lessons and case studies in Da Nang Cityでベストポスター賞を受賞しました。

次回の本ワークショップは今年11月頃、茨城大学にて開催される予定です。



(ワークショップの様子)



(ポスターコンテスト受賞の様子)

4. 民間連携／大学間交流／来訪

1) 富山県東南アジア投資ミッション

2019年12月19日、富山県東南アジア貿易投資ミッションによる日越大学への訪問が実施されました。

古田学長による大学概要説明に続き、カリキュラム、各プログラムの特徴など、活発に意見交換がおこなわれました。

本投資ミッション・チームは、富山県内の商工会議所や企業、県職員など16名で構成されており、昨今の日本の人材不足を背景に、ベトナム人の採用を前向きに考えていきたいとの意見がありました。

特に、「日越大学の学生は、専門分野に加えて日本への理解も深いため、将来の人材確保のために今後も関係構築を維持していきたい」とのご意見を頂きました。



(意見交換の様子)

2 第3期生インターンシップ報告

本年9月から本年1月にかけて、第3期生の日本でのインターンシップがおこなわれ、その様子を今月号、来月号において、各プログラムの日本でのインターンシップ報告をお伝えしていく予定です。今月は、ナノテクノロジー技術プログラム (MNT)と社会基盤プログラム (MIE)からの報告をお伝えします。

【ナノテクノロジー技術プログラム(MNT)】

I am a second year Msc. student majoring in Nanotechnology at Vietnam-Japan University. I am gratefully under supervision of Dr. Dinh Van An, a JICA long-term expert and VJU lecturer in my program. Thanks to ceaseless assistance of JICA and Dr. An, I was chosen to be an intern in Prof. Morikawa Yoshitada's Lab with great hopes of sharpening my skills in simulation calculation.

I was surprised that I was not only tutored by a private PhD mentor assisting my research and giving me advice in Japanese life but also participated in lots of lab meetings, study groups, and paper-reading club.

Hence, I have gradually instilled how to organize and give a presentation in English, how to ask and answer questions in the scientific talks. I recognized that I have made a great progress of my own project through the discussion with professors, senior students at a very collaborative atmosphere.

I am now more comprehensible and confident to take steps in research life.

Otherwise, it was my fortune to join some conferences and activities in Osaka University such as Quantum Engineering Design Workshop 2019, ASIAN-22.

I am wholeheartedly very satisfied with this once-in-a-life-time research experience. Personally, I would love to thank Dr. An, Prof. Morikawa, other professors/lecturers and members in MNT program for their support and



kindness.

Besides, I am grateful to JICA staff, especially Ms. Sumiko Hanyaku and Mrs. Nakamura Minoru for giving us a warm welcome with open arms. This is the first time I have been to Japan and I have already had an unforgettable and great memory about the hospitality of Japanese people and the great discipline of Japanese lifestyle. I have happily met and made friend with international and Japanese students, then have been invited to some traditional cuisines and guided to some places of interest.

Apart from research in Osaka University, I have also enjoyed the local life in Osaka as well as Kyoto. There was a fantastic opportunity for me to see and capture the most spectacular scenery of Osaka and Kyoto in autumn. All in all, I am thankful to JICA for organizing this internship for VJU MSc. student to live and enjoy Japan in both daily life and research life.

By great support of JICA, you have lightened my financial burden during my internship which allows me to concentrate more of my time on research and enjoy life in Japan. Your generosity has infused me with a great source of spirituality. I promise I will study laboriously and eventually I hope I will be able to accomplish my MSc. thesis in success.

【社会基盤プログラム (MIE)】

本年度も日越大学社会基盤プログラム第3期インターン生7名が9/25～12/13（計80日間）に来日し、インターンシップを実施しました。

インターンシップ期間中は、それぞれの学生の修士論文の研究テーマに合わせて、東京大学社会基盤学研究科の3研究室および生産技術研究所の1研究室に配置されました。

学生は、研究室や図書室で関連論文を検索・レビュー、研究テーマに役立つ授業を聴講したり、現場見学（東京外郭道路のトンネル、横浜港、フジタ社の技術センター、つくば市役所（公共政策プログラムとの合同実施）、東京外郭放水路（通称地価神殿）など）や研究室個別の見学会に参加したりしました。

更に、研究室ゼミに出席し、インターンシップの指導教員から論文指導を受けることもでき、大変充実した研究活動をおこないました。

インターンシップ期間後半には、それぞれの修士論文にかかるレビューがほぼ終了し、一部の学生には初期の計算モデルの構築や分析結果が得られるまでになりました。

また、インターンシップの期間中は英語で集中的にコミュニケーションを行ったため、インターンシップの発表を来日前と終了直前に聴講していた4期生は、「3期生の英語力が著しく向上した」と評価していました。

インターンシップの期間中、3期生にとって非常に印象深かったのは、台風19号の襲来でした。

夜中に風が強くドアをたたき、携帯電話の避難勧告メッセージが鳴り続けていたことを体験し、日本がいかに自然災害に備えているかについて、学生が身をもって体験することができました。

自然災害対策を担うことが期待される社会基盤分野のエンジニアにとっては学ぶことが多い貴重な経験をおこなうことができました。

学習・研究の面のみならず、学生は日本の社会を体験することができ、日本人の礼儀正しさ、物事を実施する際の計画の周到さ、街の清潔さおよび電車の時間の正確さ等を肌で感じ、日本での研究



（東京外郭放水路（地下神殿）の見学）

や就職の意欲が大きく高まったと話していました。



(研究室での修論テーマ発表)



(研究室での実験参加)

3 留学生に聞いてみた！

今月号から、新シリーズ「留学生に聞いてみた！」を始めます。日越大学では、今年 87 名の入学生のうち 14 名が留学生(8 か国)であるなど、国際化が進んでいます。

そこで本コーナーでの記念すべき第 1 号は、日越大学初の日本人留学生、渡辺 明莉(めいり)さんです。

Q1.ベトナムに興味を持ったきっかけは？

元々はタイ・チェンマイの少数民族を訪れ、東南アジアに興味を持ったのがきっかけです。小学生の頃から偏頭痛と肩こり持ちで、整体に通っていましたが、整体の先生の紹介がきっかけで、高校生の時に学生ツアーでチェンマイを 10 日間訪れることができました。そのとき出会ったカレン族の方とは、今も文通を続けています。

大学では英米語学科専攻でしたが、タイへの関心もあって、東南アジア中心に勉強していました。サークル活動では、Habitat for Humanity (住宅支援 NGO) に所属し、マレーシアなどで家を建てるのを手伝ってきました。

その中で、ベトナムという国に勢いを感じ、7ヶ月ハノイ大に留学しました。また、ベトナムの食と相性がバッチリ合ったというのも理由です。今もベトナム料理が世界一だと思います。

Q2.どうして日越大学に？

新卒で入った日系の衣料品関係の企業では、1 年半ほどフンイェン省で駐在していましたが、何年も同じ仕事が続くのではと不安になり、ベトナム市場開拓を目指すメーカーに転職しました。しかし、ベトナム案件が進展せず、海外営業として赴任することもなく、日本で事務作業を繰り返す日々で苦しむなかで、ベトナムについて包括的に学び直したいと思うようになりました。最初は日越の通訳学校を探していたのですが、たまたま学生時代に VietJo のニュース



VJU 入学式で表彰された各コース首席
(※渡辺さんは左から 5 番目)

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学
修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。